



4 胡人狩獵図巻 吉田元陳 一巻

江戸時代(十八世紀) 紙本着色 縦三五・三

中国北方、西方の異民族が狩獵する様子を描く図様は、屏風等によって室町頃からの作品が知られているが、そこに描かれる獣の種類、人物の配置やポーズ等の様子から、物語や遊技などの風俗を取り入れた種々の要素から成立したいくつかの系統の図様が存在しているようである。本作品もその一例であるが、虎を退治する場面が図巻の中央に描かれ、狩獵の主要場面とされている。こうした背景には、文禄の役、慶長の役と二度の朝鮮出兵をした加藤清正の朝鮮における虎退治の武勇伝の影響も大きいのではないかと考えられる。本図では、騎馬上の武将の槍が虎の喉元に打ち込まれ、虎が降参している姿を描いているが、同様の図様が清正の虎退治の図様に見られるのは、決して偶然ではあるまい。中国、あるいは朝鮮の図様要素に日本人の逸話が融合した新たな図様が見出せる点で、興味深い。

吉田元陳(一七二五頃〜九五)は、鶴沢探鯨の門弟、石田幽汀と同じ時期に活躍した絵師で、円山応挙と共に寛政度の内裏造営(一七九〇年)にも携わり、明和八年(一七七二)には御所の太宋御屏風を制作するなど、宮廷御用を多く受けていたことが史料から知られる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

虎・獅子・ライオン

— 日本美術に見る勇猛美のイメージ

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 51

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年七月十七日発行

© 2010 The Museum of the Imperial Collections